

札幌米国総領事館 首席領事、遺愛に来校！！

5月17日（金）に札幌米国総領事館首席領事であるレイチェル・ブルネット-チェンさんが、遺愛を訪問し、遺愛生と交流して下さいました。2016年8月に札幌に着任したのですが、この夏に離任し、またアメリカに戻る予定です。一度は遺愛に来てみたいという希望をもって、離任ギリギリで実現しました。

出身はウィスコンシン州モンローで、高校生の時にロータリークラブの交換留学生として埼玉県深谷市に滞在したそうです。札幌へは同じく米国外交官である夫ペリー・チェンさんと二人の幼い娘さんを伴って赴任しました。領事館では、上司と部下という関係で夫婦が共に勤務することはできないので、現在はご主人が休職し、子育てをされており、家族で旅行、音楽、アート、アウトドアを楽しんでいるそうです。

遺愛の生徒の皆さんに強調していたのは、「ぜひ外国に留学して下さい！！可能性が大きく広がります！！」ということでした。レイチェル首席領事自身のこれまでの経験から語っていたので、とても説得力がありました。高校生の時に日本に留学した時に、これからする予定のホームステイ先に書いた御手紙を見せていただきましたが、語順も、文法も、言葉もメチャクチャ。でも何となく心は通じるという御手紙でした。「最初は、それでいいんです！」と言っていました。留学のハードルがかなり低くなった瞬間でした。

2019年5月17日（金）



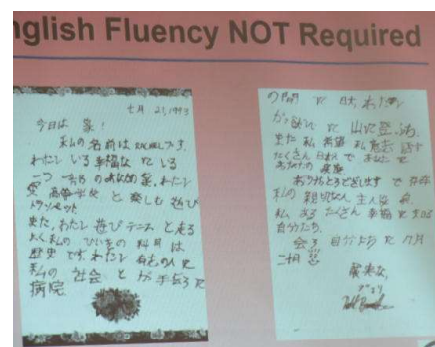
講演



記念写真



謝辞



ホームステイ先への御手紙